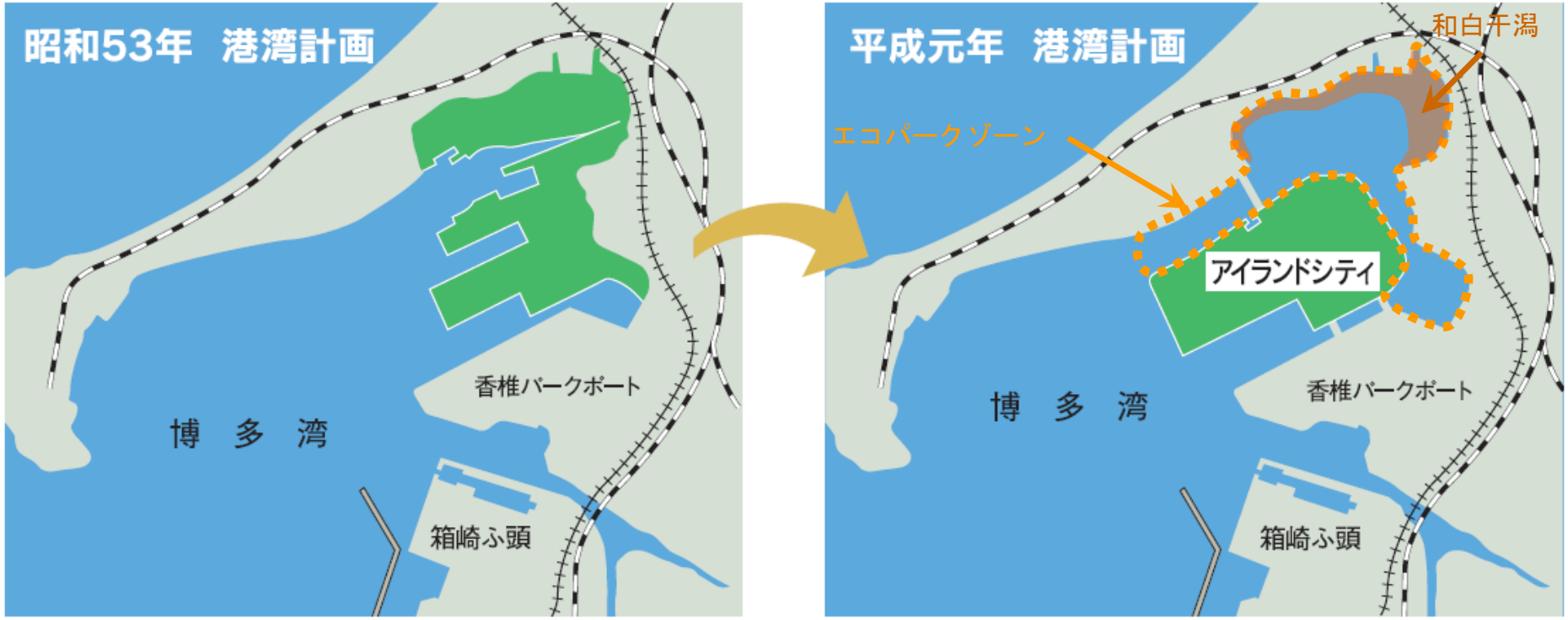
野鳥公園の整備について

福岡市港湾局

埋立計画の変更（自然との共生）

- 和白干潟を残し、周辺の自然環境を保全するため、陸続きの埋立計画を<u>島方式の計画に変更</u>

- 和白干潟及びその周辺海域，海岸域約550ヘクタールの水辺空間を，<u>自然と人の共生をめざす「エコパークゾーン」と位置づけ</u>



エコパークゾーンの豊かな自然

・飛来する渡り鳥

125種

・全個体数

約14,000羽

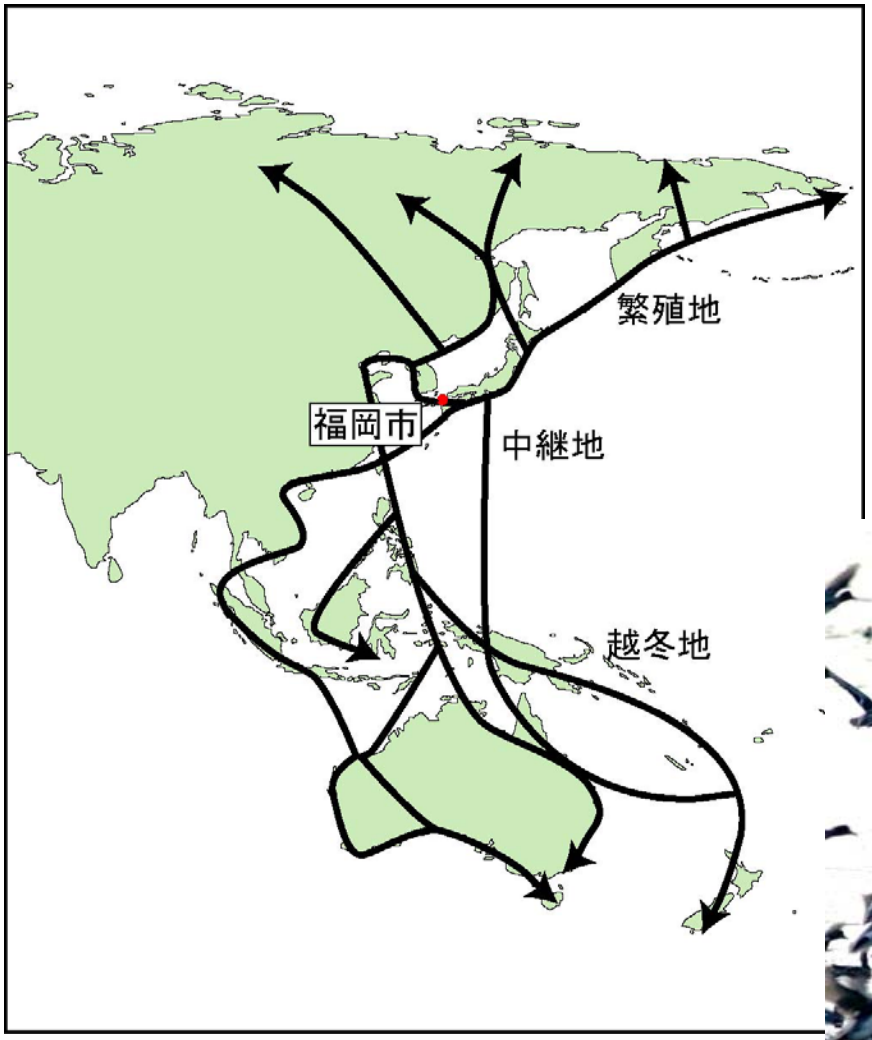
（平成22年度）

・・・全国有数!!

・多くの種類のカニや貝類，海浜植物

・潮干狩りや自然観察の市民でにぎわう場

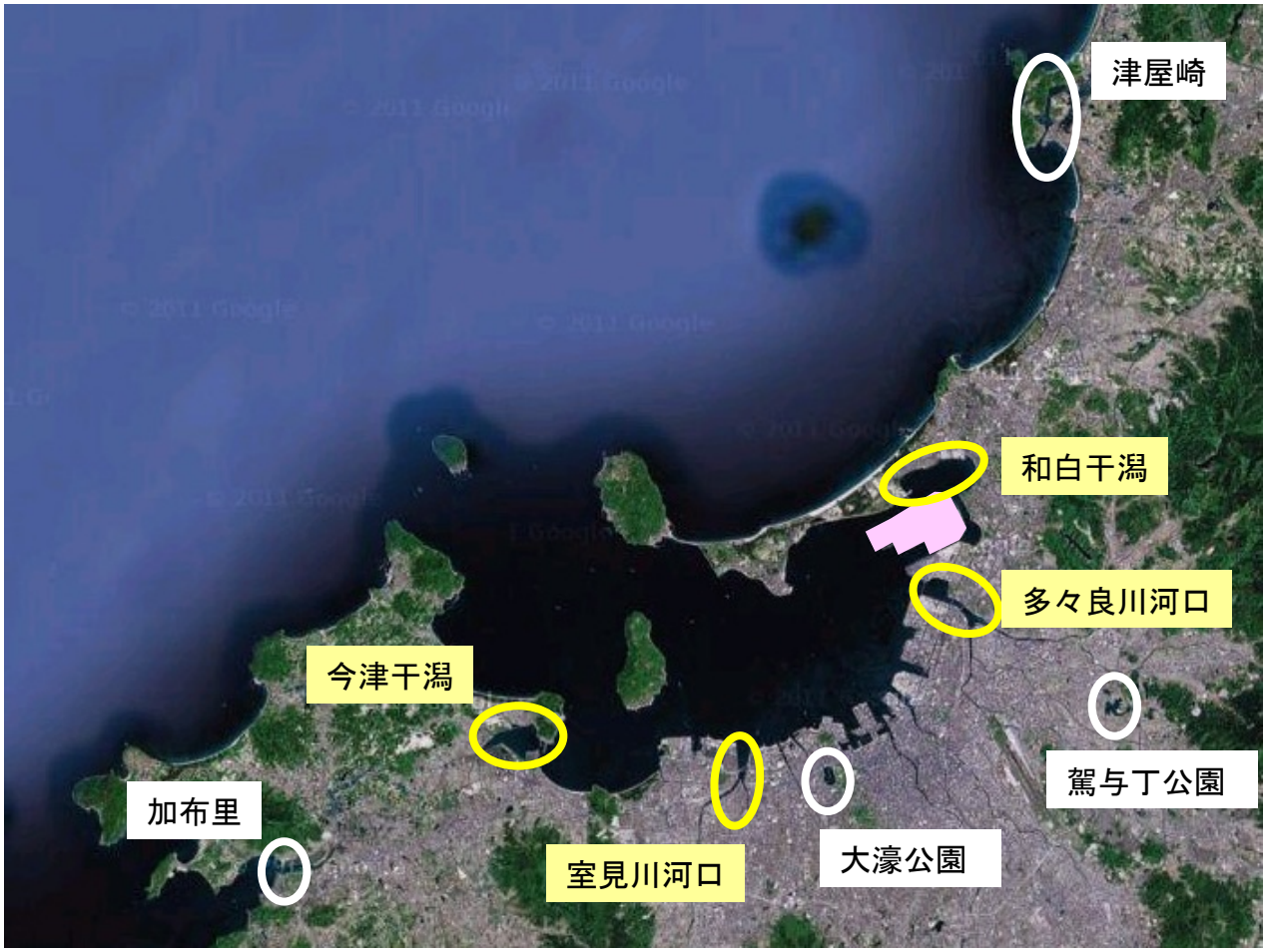
渡り鳥のルート



博多湾周辺における渡り鳥の主な利用箇所

- 博多湾の内外を行き来しながら広範囲で利用している。

和白干潟,名島,多々良川河口，大濠公園，室見川河口，今津干潟，
駕与丁公園，津屋崎，加布里　など



野鳥公園の位置づけ

【経　緯】

平成4年9月

アイランドシティ基本計画

●緑地計画の中で親水緑地として位置づけ

平成18年5月

福岡市野鳥公園基本構想

●学識経験者や地元住民，公募市民など20名で構成。約1年9ヶ月をかけて議論。野鳥公園のあり方について市長に提言。

平成21年12月

アイランドシティ事業計画

●エコパークゾーンとの一体的な整備

●人と自然の共生を象徴する施設として整備

福岡市野鳥公園基本構想①

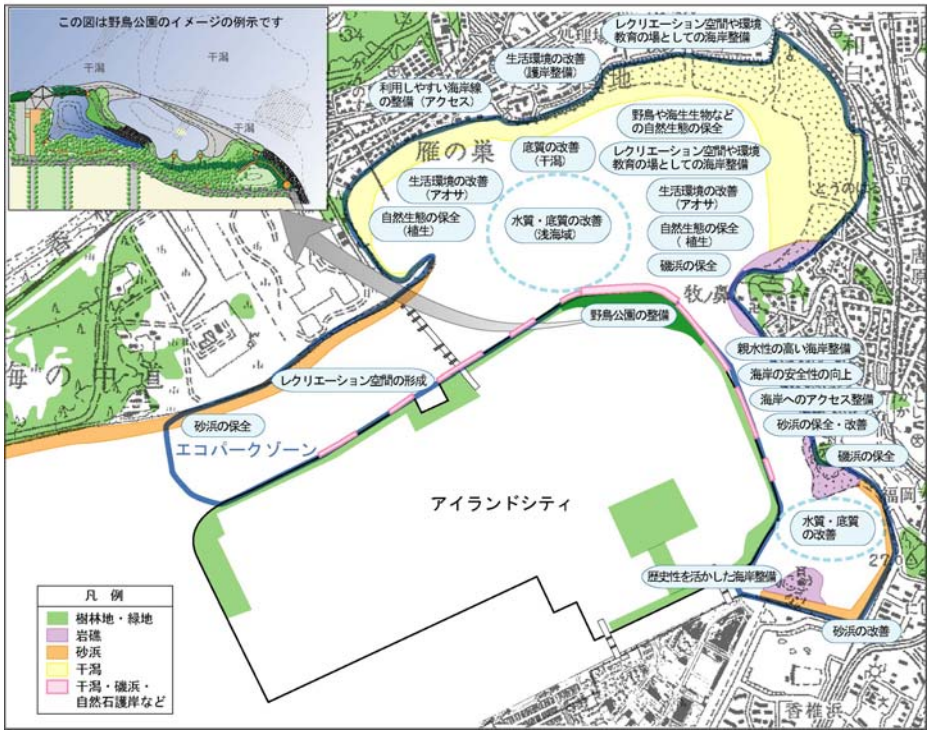
＜提言の主な内容＞

○ 野鳥公園は550ヘクタールにおよぶ「エコパークゾーンとの一体的な整備」が不可欠

○野鳥公園整備に必要な3つの視点
「生物の生息空間の創出」
「自然環境を身近に感じられる空間の創出」
「エコパークゾーンの中核機能の創出」

○エコパークゾーン整備に必要な3つの視点
「豊かな生態系の保全・再生・創出」
「潤いのある生活環境の整備」
「多様な主体による連携と共働」

○「順応的な管理」や,
「長期的な視点に立った整備」が重要



野鳥公園とエコパークゾーンの一体的整備のイメージ図

（福岡市野鳥公園基本構想より）

福岡市野鳥公園基本構想②

＜提言の主な内容＞

○　自然再生に向けた新たな施策の提言などを行う「推進委員会」と、
市民団体等が情報や意見の交換を行う「市民協議会」を設置する

エコパークゾーンの環境質の向上

推進委員会

エコパークゾーン環境保全創造委員会

メンバー：学識経験者、市民　計10名
設　　置：平成18年11月
内　　容：①これまでにエコパークゾーンで実施した環境保全創造施策の総括
②今後取り組むべき施策について検討

市民協議会

和白干潟保全のつどい

メンバー：市民団体等
設　　置：平成18年4月
活動内容：①毎月1回の情報交換
②共働での環境保全活動の企画・実施

エコパークゾーン環境保全創造計画
（平成22年3月）
この提案をもって委員会は終了

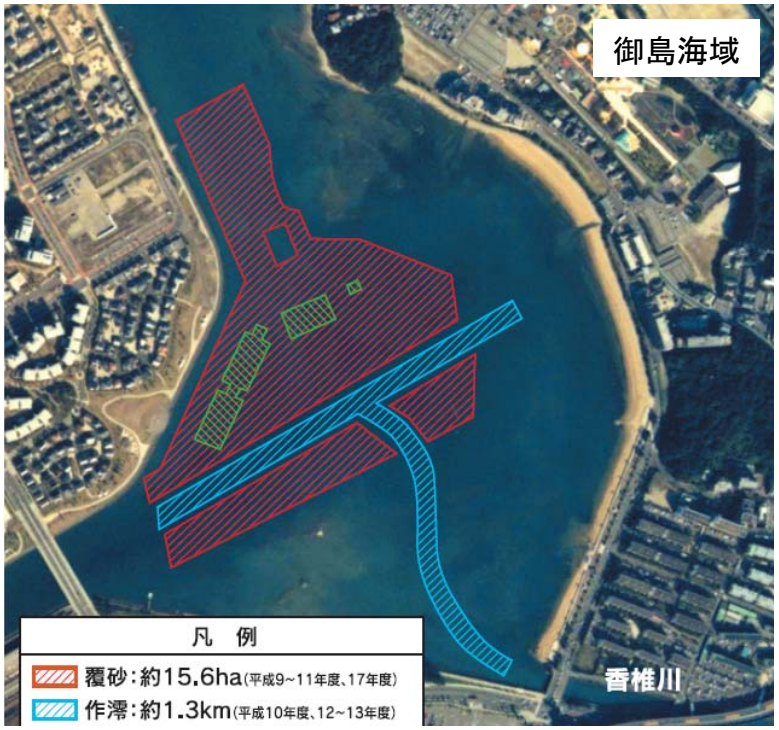
今後必要な施策（3つの主要施策）

- 和白海域環境改善対策
- 鳥類保全対策
- ソフト施策

エコパークゾーンの環境保全創造事例①

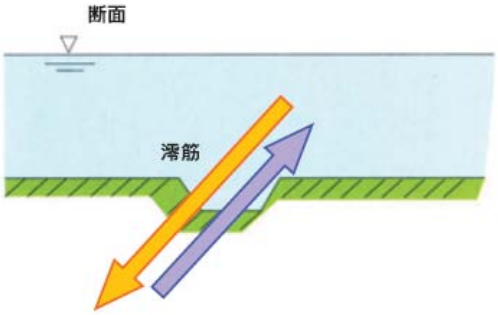
覆砂（ふくさ）

海底にきれいな砂を敷き，
生きものがすみやすい環境を創造



作澪（さくれい）

海底に溝を掘り，海水の流れを
良くし，交換を促進



濁った海底

澄んだ海底とクサフグ

エコパークゾーンの環境保全創造事例②

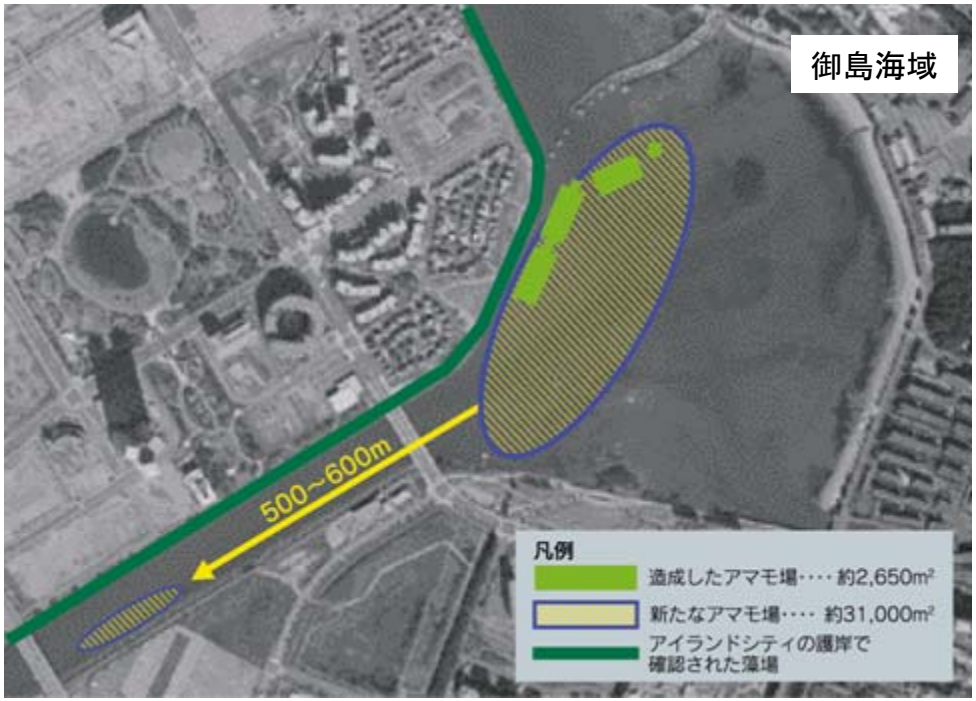
アマモ場づくり

平成17～20年度：御島海域
平成21，22年度：和白海域での発芽生育試験実施

・アマモを海底に植えることで，多くの生きものが集まる場を創出。

・御島海域では，アマモの種子が拡散し，造成した2,650㎡が約31,000㎡に拡大。

・今年度より和白海域で本格実施。その準備は小学校（10月31日）や，一般公募の市民（11月12日）と共働で実施。



アマモとは？
「海のゆりかご」と言われている海草で，産卵場や小魚の隠れ家となり，多くの生きものが集まる場を創出する。

アマモ場に集まるウミタナゴの群れ

コウイカ

アマモに産み付けられたコウイカの卵

エコパークゾーンの環境保全創造事例③

鳥類保全対策

・アイランドシティの工事現場を一時的に渡り鳥が利用していた

↓

・工事が進むにつれ利用できなくなるため，生息場をスムーズに移行させる必要があった。

↓

・専門家の意見を参考に，野鳥公園予定地の前面にシギ・チドリ類の休息場を設置

・渡りの時期には一度に300羽を超えるシギ・チドリ類が利用

餌を採るカモ

フロートで休息するハマシギ（300羽超）

エコパークゾーンの環境保全創造事例④

エコパークゾーンガイドブック

- エコパークゾーンのPRのためのガイドブックを制作。
- 平成22年4月の発刊より約6,000部を配布。
- 環境啓発事業で配布しているほか，小学校や校区の環境学習テキストなど，幅広く利用されている。
- ホームページからもダウンロード可能。

http://port-of-hakata.city.fukuoka.lg.jp/ecology/ecopark/guidebook.html

市民協議会の設置

和白干潟保全のつどい

【設　　置】 平成18年4月

【参加団体】 和白干潟で環境保全活動を行っている市民団体等

【内　　容】 毎月１回の定期的な意見・情報交換
和白干潟の環境保全に向けた市民参加型共働事業を企画・実施

【主な環境保全活動】（平成22年度　計7回開催　総参加者　約340名）

・アオサ回収　　・バードウォッチング　　・啓発看板の制作，設置
・干潟生物や海浜植物の観察会　　・海浜植物の植栽　　など

エコパークゾーン周辺の環境保全創造事例

名島地区

・護岸整備の際に，鳥のための休息場や餌場をあわせて整備。
・その休息場の紹介や，潮干狩りのルールを啓発する看板を，NPOと共働で設置。

多々良川河口干潟

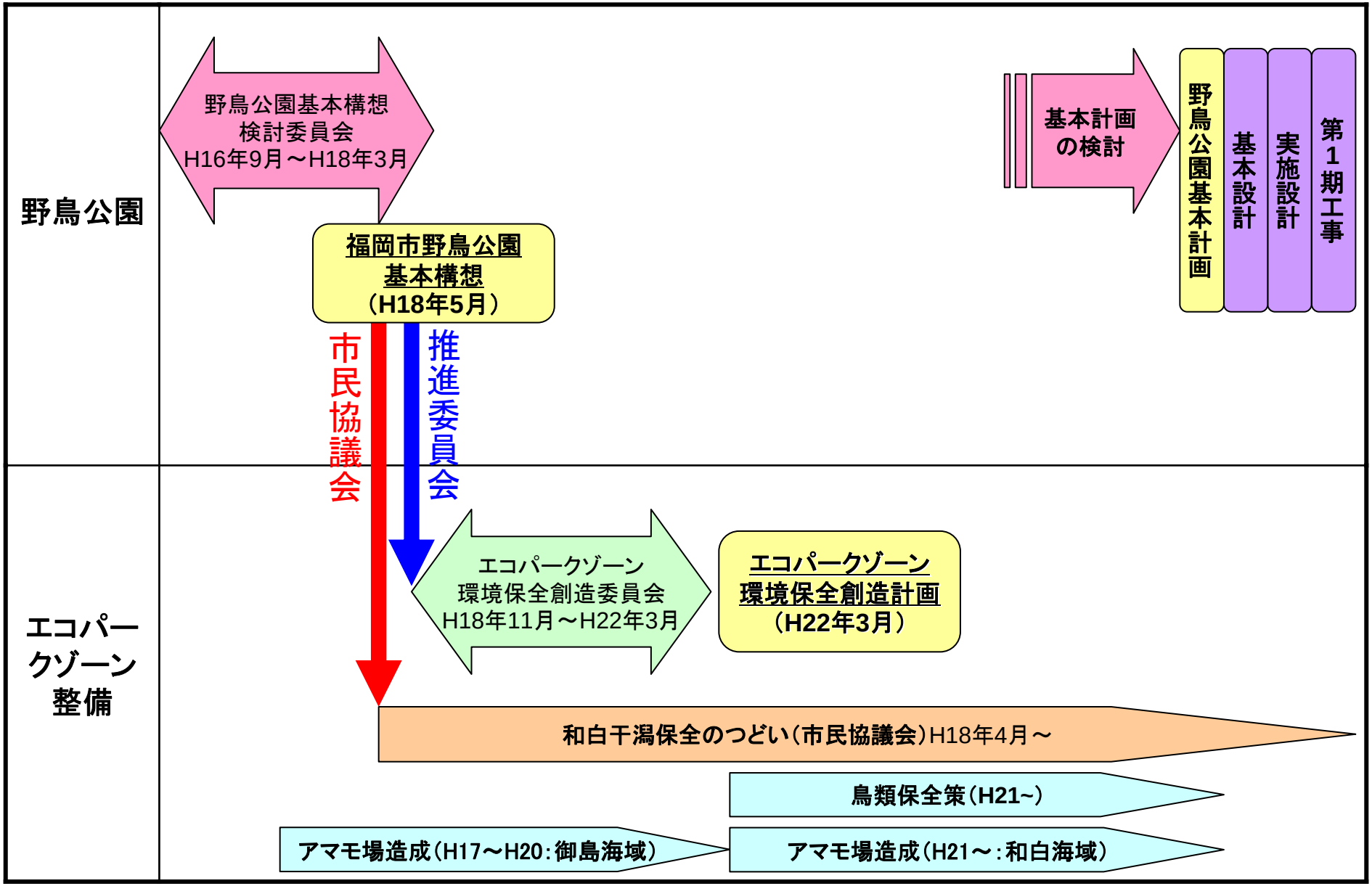
・県とNPOの連携により，クロツラヘラサギの生息場の保全が行われている。

野鳥公園予定地の状況

現在の状況（地盤改良中）

野鳥公園周辺の
環境づくり

整備に向けた流れ


野鳥公園
野鳥公園基本構想
検討委員会
H16年9月～H18年3月
福岡市野鳥公園
基本構想
（H18年5月）
市民協議会
推進委員会
基本計画
の検討
野鳥公園基本計画
基本設計
実施設計
第1期工事
エコパークゾーン
整備
エコパークゾーン
環境保全創造委員会
H18年11月～H22年3月
エコパークゾーン
環境保全創造計画
（H22年3月）
和白干潟保全のつどい（市民協議会）H18年4月～
鳥類保全策（H21~）
アマモ場造成（H17～H20：御島海域）
アマモ場造成（H21～：和白海域）